



基本目標 7

多彩な市民とオール千歳で 挑戦するまち

目標とするまちの姿

時代とともに生まれる様々な課題や目標に対し、千歳市民をはじめ、千歳市に縁のある人たちが持つ多彩な知恵や経験を結集し、解決に向けて取り組んでいくことができる「多彩な市民とオール千歳で挑戦するまち」を目指します。

展開方針

1. 市民協働によるまちづくりを推進します。
2. 自衛隊とともに発展するまちづくりに努めます。
3. シティセールスを戦略的に推進します。
4. 健全で効率的な行財政運営に努めます。



展開方針1

市民協働によるまちづくりを推進します。

現状と課題

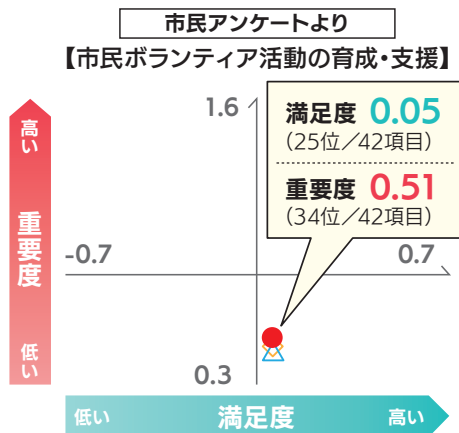
- 地域の自主性を目指した地域主権型社会※の確立に向けて自治体への権限移譲などが進められる中、特性ある住みよい地域を実現するために、市民の自主的な活動に基づくまちづくりの重要性が高まっています。
- 千歳市では、まちづくりにおける行政や市民、事業者などの役割分担のほか、市民がまちづくりに参加しやすい仕組みづくりなど、住民自治の確立に向けた取組を進めてきました。人口増加を目指し、性別や年齢、国籍などにかかわらず多彩な市民が居住する中で更なる住民自治を推進するためには、今後もまちづくりに関する情報提供や人材育成、まちづくりに関わる機会の充実などに努める必要があります。
- 市長への手紙や市長へのポストなどを通じて市民の意見を聴く機会を設けてきました。今後も市政への参画を促し、多様なニーズに対応していくために、引き続き広聴活動を推進する必要があります。
- 成熟型のより魅力あるまちづくりを進めていくためには、男女が性別によらず個性と能力を十分に発揮できる環境を作っていくことが重要です。子育てや介護などで女性のみには過度な負担がかからないようにするとともに、女性が意思決定の場に参画しやすい機運を作り、様々な場面で女性の目線を取り入れていくことが重要です。
- 女性の社会参加について、千歳市内の女性の就業状況をみると、結婚等に伴う一時的な離職などにより、20歳代、30歳代の就業率が低い傾向にあることから、再び社会で活躍したいと考えている女性が仕事などに就きやすい環境を整備していくことが必要です。
- コミュニティ活動の重要な担い手である町内会の加入世帯数は、年々減少傾向にあるほか、役員の高齢化などによる担い手不足が問題となっていることから、市民が地域活動に積極的に関わることでできる仕組みづくりが必要です。
- 地域で活動する町内会などの団体が互いに連携できるきっかけづくりなど、コミュニティ活動をより活発にするために引き続き取り組んでいく必要があります。また、地域活動やボランティアに参加したいと考えている学生がいる状況を踏まえ、若者がコミュニティ活動に参加しやすい仕組みを作っていくことが必要です。
- コミュニティ活動の拠点となるコミュニティ施設については、町内会などのニーズや利用状況を踏まえながら計画的に改修や整備などを進めていく必要があります。
- 行政文書に関する情報公開・個人情報保護制度の運用にあたっては、行政情報の有用な活用と個人のプライバシー保護の両立を図っていくことが必要です。

用語解説

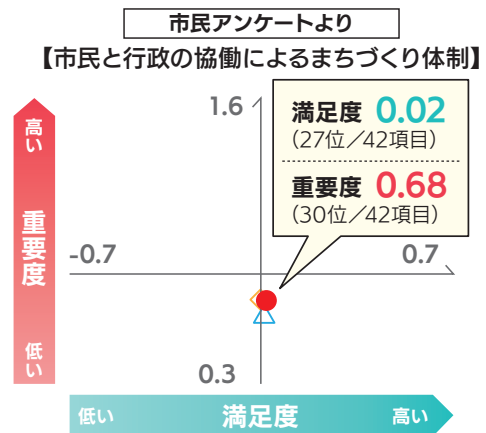
※ **地域主権型社会**：地域の課題解決や活性化のために、国からの視点ではなく、一人ひとりの個人、共に力を合わせた住民、地方自治体が、自主的に考え、決断し、行動する社会のこと。

【市民アンケート】

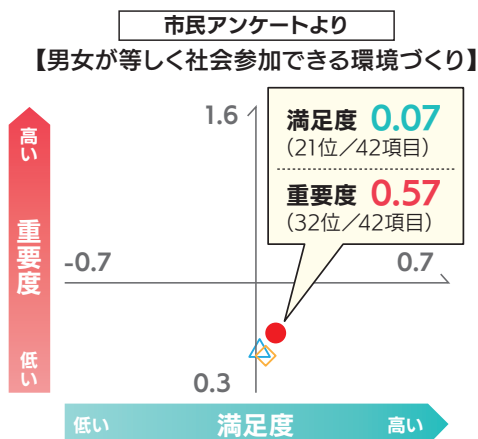
- 「市民ボランティア活動の育成・支援」は満足度は平均的で、重要度は比較的低いと評価されています。



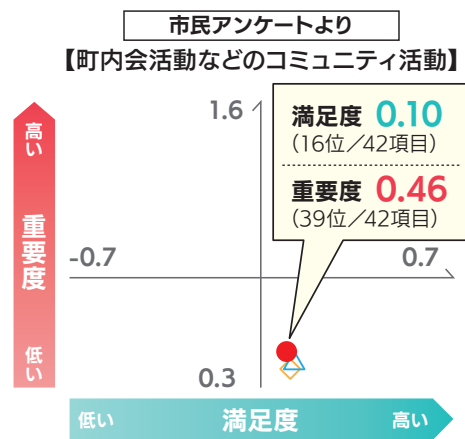
- 「市民と行政の協働によるまちづくり体制」は満足度は平均的で、重要度は比較的低いと評価されています。



- 「男女が等しく社会参加できる環境づくり」は満足度は平均的で、重要度は比較的低いと評価されています。



- 「町内会活動などのコミュニティ活動」は満足度は平均的で、重要度は比較的低いと評価されています。



- 行政活動(まちづくり)に関心がある市民の割合は高いものの、意見を提言する機会への参加意欲は低い状況にあります。
- イクボスなど家庭における男性の参画が進んでいないとの声があります。(自由記述)

【中高生・大学生アンケート】

- 地域活動やボランティア活動へ参加する意向がある学生が約6割を占めていますが、「地域の交流、つながり」については、学年が上がるほど重要と感じていない結果となっています。

【団体アンケート】

- 「活動や会議などに利用できる場所の提供」への満足度は比較的高い一方、「地域に貢献する活動を行ううえでの経済的な支援（補助金など）」「活動運営に役立つ情報の提供」への満足度が低くなっています。
- 地域福祉を支えている町内会やボランティア団体の役員や会員の高齢化やなり手不足が課題としてあげられています。
- 若い世代や現役世代、集合住宅世帯などの町内会活動への参加者が少ないとの声があります。（自由記述）

【都市経営会議からの提言】

- 市民一人一人の知識、経験、特性を生かし、地域に貢献できる活動を促し、広げていきましょう。

【ちとせの木プロジェクト】

- 10年後の千歳について「男女かんけいなくなよくらす。」まちにしたいとの意見がありました。

基本方向

みんなで進めるまちづくり（市民協働によるまちづくり）を進めるため、「まちづくりに関する情報の共有」、「市民協働の担い手となる人材の育成」、「行政活動への市民の積極的な参加」を更に推進します。

市民の声を聴き、まちづくりに反映するように努めます。

一人ひとりが、自ら希望する分野で活躍できる社会の実現を目指すため、性別役割分担意識の解消やワーク・ライフ・バランス※の考え方などの普及に努め、家庭・学校・職場・地域などでの男女共同参画の拡大に向けた取組を市民協働により促進します。

地域住民の自主的な参加を促しながら、地域住民自らが地域の課題解決を図るとともに、地域で活動する団体などと連携し、活発にコミュニティ活動に取り組むことができるよう支援に努めます。

利用者のニーズや利用状況を踏まえながら、計画的にコミュニティ施設の改修や整備などを推進します。

開かれた市政と個人情報保護を保護し基本的人権を守ることの両立を目指します。



ミナクールまつり（市民協働プロモーション事業）



障がい者理解のための研修会（市民提案型協働事業）

用語解説

※ **ワーク・ライフ・バランス**：「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のこと。

展開方針2

自衛隊とともに発展するまちづくりに努めます。

現状と課題

- 千歳市と自衛隊の歴史は、昭和25年(1950年)8月に自衛隊の前身である警察予備隊が現在の航空自衛隊千歳基地に駐屯したことに始まり、その後、昭和27年(1952年)には北千歳駐屯地が、昭和29年(1954年)には東千歳駐屯地が開庁し、千歳市は、日本の北方防衛を担う重要な拠点となりました。
- 千歳市に所在する自衛隊は、我が国の防衛に加え、災害派遣の任務などを通じて市民の生命や財産を守る大きな存在となっているほか、地域に住む自衛隊員は、町内会をはじめスポーツ・文化など、多方面の団体活動を通して、市民生活と大きな関わり合いを持っており、まちづくりの担い手として必要不可欠な存在となっています。
- 近年、自衛隊の体制の変革が進んでおり、北海道における自衛隊の体制縮小に加え、充足率※の低下が懸念されています。自衛隊員の減少は千歳市の人口減少に直結し、まちづくり全般に大きな影響を及ぼすことから、自衛隊の体制維持・強化を求める活動に取り組み、自衛隊とともに発展するまちづくりを一層進めていくことが必要です。

市民の声

【市民アンケート】

- 他都府県から転入してくる自衛隊員が定住したくなるような取組が必要との声があります。(自由記述)

基本方向

積極的な自衛隊の体制維持・強化を求める活動に努めます。

千歳市に所在する意義を広く市民に周知し、自衛隊への理解を促進します。

地域活動、コミュニティの形成や地域経済の活性化に大きな役割を担っている自衛隊との共存共栄によるまちづくりに努めます。



自衛隊員による花ロード支援

用語解説

※ **充足率**: 自衛官の定員に対して、実際に配置されている自衛官数の割合のこと。



展開方針3

シティセールス^{※1}を戦略的に推進します。

現状と課題

- 広報ちとせやホームページ、SNS^{※2}等を通じて、市民生活やまちづくりに関する情報の積極的な広報活動を推進してきました。市民がまちづくりについての理解を深めるとともに関心を高められるよう、情報発信の充実に努める必要があります。
- 千歳市には、恵まれた自然や交通利便性、多くの雇用の場、子育てしやすい環境、充実した都市機能、道内で最も「若いまち」など、様々な特性や強みがあります。こうした「まちが持つ『価値』」を、市内外に積極的に伝え、認知度やイメージを向上させていくことが重要です。
- 近年、定住人口や交流人口^{※3}に加え、地域と多様に関わる関係人口^{※4}の重要性が高まっています。転出入者が多い千歳市は、全国各地に千歳市にゆかりのある方々が多くいることから、これらの方々とのつながりを深めるとともに、新たな交流・関係づくりにより、まちの活性化に寄与する関係人口を創出することが重要となっています。

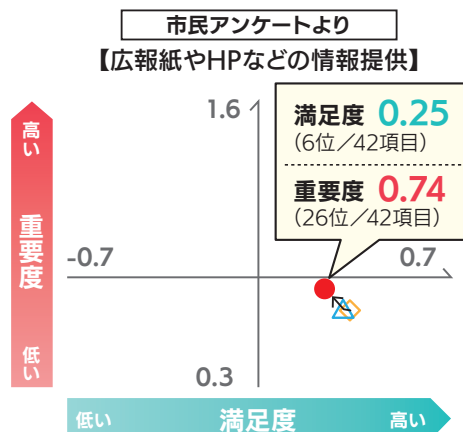
市民の声

【市民アンケート】

- 「広報紙やホームページなどの情報提供」は満足度が高く、重要度は平均的と評価されていますが、満足度は低下傾向にあります。
- ホームページの改善など行政からの情報提供方法をより充実させてほしいとの声があります。(自由記述)

【まちづくりインタビュー】

- 大学生から市の広報等は読まないとの声があります。



基本方向

広報ちとせや市ホームページをはじめ、多様な媒体を通じ、よりわかりやすい情報発信の充実に努めます。

まちづくりに関する情報や千歳市が有する価値を発信するシティセールスを戦略的に展開し、市民の郷土愛やシビックプライド^{※5}の醸成を図るとともに、定住人口の増加・交流人口の拡大・関係人口の創出に取り組み、市内の経済活性化など様々な分野への効果の波及に努めます。

用語解説

- ※1 **シティセールス**：定住・交流人口の増加や地域活性化、発展等を目的に、まちが有する資源や特性を市内外に売り込むこと。
- ※2 **SNS**：「Social Networking Service」の略で、人と人とのつながりを促進・サポートするコミュニティ型のWeb サイトのこと。
- ※3 **交流人口**：地域外からの旅行者や短期滞在者のこと。
- ※4 **関係人口**：通勤・通学者や過去に観光等で来訪経験のある人、ふるさと納税の寄附者など、まちにゆかりのある人たちのこと。
- ※5 **シビックプライド**：市民が「住んでよかった」と感じ、わがまちに誇りをもつこと。

健全で効率的な行財政運営に努めます。

現状と課題

- 近年の地方財政状況は、人口減少・高齢社会の進展などにより、一層厳しさを増す状況にあります。また、地方分権が進展する中、行政サービスに対する市民ニーズが多様化・複雑化し、これまで以上に幅広い行政サービスが求められており、一つの自治体では解決できない課題への対応や、圏域全体の資源を有効活用した相乗効果の創出を図るとともに、限られた行財政基盤の中で市民ニーズに対応しつつ行政事務の効率化を進める必要があります。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う企業活動の縮小や消費低迷などにより、税収等の大幅な減少が見込まれる中、今後も持続的に発展することができる行政運営を目指すためには、長期的な財政収支見通しのもと、事業の選択と集中などによって財政収支の均衡を維持するとともに、計画的に資産の確保及び負債の減少を進め、強固で持続可能な財政基盤を確立する必要があります。また、市民へのサービス水準を維持していくため、公共施設等の修繕及び更新費用の抑制や施設の配置や規模の見直しについて検討する必要があります。

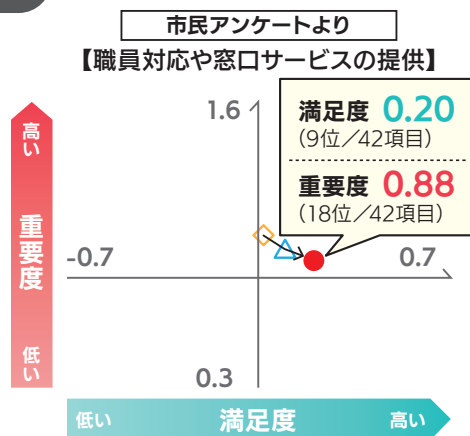
市民の声

【市民アンケート】

- 「職員対応や窓口サービスの提供」は満足度が高く、重要度は平均的と評価されており、満足度は上昇傾向にあります。
- 職員の対応の改善を求める声があります。(自由記述)

【大学生アンケート】

- 市役所の終業時間を遅くしてほしいとの声があります。(自由記述)



基本方向

人材育成や民間活力の活用に加え、行政・民間事業者等が保有する各種データの共有・利活用や行政のデジタル化などICTを積極的かつ安全に活用することにより、新たな価値の創出や市民生活の利便性向上を図るとともに、施策・事務事業の更なる見直しや公共施設の機能充実・再編等に努め、行政運営の効率化と適正化を推進します。

経費の節減や効果的な事業投資など効率的な財政運営を推進するとともに、自主財源の確保や将来負担の軽減など財政運営の適正化に努めます。

広域市町村圏や近隣自治体との連携により、効率的で効果的な広域行政を推進します。

